

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24220004	研究期間	平成24年度～平成28年度
研究課題名	複合現実型情報空間の表現力基盤強化と体系化	研究代表者 (所属・職) (平成29年3月現在)	田村 秀行（立命館大学・総合科学技術研究機構・教授）

【平成27年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

これまでの研究の進捗は概ね順調であり、実利用を想定した研究の進展が確認できる。視聴感の高臨場感体験という挑戦的研究であるが、研究計画は妥当であり、達成目標をより明確化し、着実に実行することで、当初の目標は達成可能と考えられる。今後は、当該分野における主要な国際会議や英語学術論文誌での研究発表を組織的に強化するとともに、実応用を実感できる「体験デモ」展示に注力することにより、国際的なプレゼンスを高めることを期待する。

【平成29年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、期待どおりの成果があった。
A	視聴覚併用複合現実（MR：Mixed Reality）空間の高度化に加え、代表者の独創的挑戦である隠消現実感（DR：Diminished Reality）の基盤構築において計画に沿った期待どおりの成果があった。成果の公表状況も良好である。本研究は、体験型技術であり、引き続き機会を捉えた体験デモ展示の実施により、研究コミュニティ及び一般社会へ技術啓蒙することを期待する。